

わかやま

景観・まちづくり新聞

県内の景観やまちづくりに関する取り組みについて情報をお届けします。
市町村やまちづくり団体の取り組みで記事がありましたら、ご連絡ください！

VOL.6 2011.1.6

発行：和歌山県 県土整備部
都市住宅局 都市政策課
TEL：073-441-3228
FAX：073-441-3232
E-Mail：
e0809001@pref.wakayama.lg.jp
和歌山市小松原通 1-1
URL：http://www.pref.wakayama.lg.jp/
prefg/080900/
編集：NPO 法人 市民の力わかやま

湯浅町の町なみ紹介

平成18年、醤油発祥の地である湯浅町市街地の北町・濱町・中町・鍛冶町の各一部、東西約400m×南北約280mの区域が名称「湯浅町湯浅」種別「醸造町」で国の「重要伝統的建造物群保存地区」(※)に、和歌山県で初めて選定されました。

湯浅の町家の特徴

江戸末期から大正頃に建てられた、醤油や金山寺味噌等の醸造関係の町家や土蔵が残り、特徴的な景観が残されています。

・幕末～明治時代
二階の天井が低い「厨子(つし)二階」と呼ばれる建て方です。武士をはばかりて、見下ろすことがないように物置として使われました。明かり取りの虫籠(むしこ)窓、白漆喰の壁が特徴です。一階は片手引きの大戸口、商家では、手すり状の半格子が広く用いられました。

・大正時代
二階は通常の高さがあり、本二階と呼ばれます。黒漆喰の壁面、銅張りも現れます。一階部分の格子は、上までつながった連子(れんじ)格子となります。



竹林家 (江戸末期安政年間建造)
醤油醸造と網屋、質屋を営んでいた元商家
虫籠窓、厨子二階、1階は大戸口と格子
江戸後期の町家の特徴を良く示す。

湯浅町のまちづくり(その一)



<みなとまちづくり事業>
明治前期の屏風絵をもとに復元された手作りのジオラマ。港・帆船・町並みが江戸時代の湯浅港の賑わいを伝える。北町の麴資料館に展示。
(現在建物改修中のため、公開していません)

湯浅の歴史・文化・産業

平安時代から熊野古道の宿場町として栄え、地形的に良港に恵まれて、みかんや醤油の輸送手段として海運業が発達しました。アジ・サバ・シラスなどが豊富な湯浅湾があり、漁業も盛んです。紀州藩の手厚い保護を受けて醤油作りが盛んになり、湯浅繁栄の基礎となりました。

まちづくりの推進

湯浅町は平成13年に「湯浅町中心市街地活性化基本計画」を策定。これを受けて湯浅町商工会がまちづくり機関 TMO (Town Management Organization) として認定されました。平成14年から「身の丈に合った事業を、手づくりで確実に積み上げていく」を基本方針として事業を開始しました。8年経過した現在もこの活動は継続中で、和歌山県内では「最もうまくいったまちづくりは湯浅町」との評価を得ています。

(1) 第一次アクションプラン(平成14～16年)

小さい事業を一つひとつ積み上げ、20事業以上にもなると、「町が変わってきた！」ことが

実感でき、町民の意識も変わってきました。平成16年に、近畿地方整備局の「みなとまちづくり事業」に「湯浅広港」が選定されました。これにより、醤油積み出し頭「大仙堀」、「弁財天堀の中波止」等の資源を活かす方策を検討。江戸時代の「大仙堀」の賑わいを表現した模型を作成、展示したところ、メディアで紹介され大きな反響を得、町民意識がさらに盛り上がりました。同年、熊野古道が世界遺産登録されたことも追い風となりました。町内を古道が通る湯浅町には、立石道標と二箇所の王子跡があり、入込観光客は30万人を超えるまでになりました。

(2) 平成17年度、第二次アクションプラン策定

(3) 第二次アクションプラン(平成18～20年)

5年のまちづくり活動の結果、町並み保存の条例を制定出来、平成18年12月に国から念願の「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受けました。その効果で、平成19年には、「ゆあさ行灯アート展」や「第一回全国醤油サミット」を開催、茶屋、土産物店、ギャラリーなどが町並みに集積し始めました。改築する古民家も増え、平成20年には観光客は40万人近くになりました。この年には、それまでの成果と課題を踏まえ「湯浅町 TMO 活性化五カ年計画」を策定し、地方市町村で継続して新しい店が開店するしきい値と言われる入込観光客50万人を目標にまちづくりを進めているところです。

※1重要伝統的建造物群保存地区

昭和50年の文化財保護法の改正によって伝統的建造物群保存地区の制度が発足し、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになりました。市町村は、伝統的建造物群保存地区を定め、国はその中から価値の高いものを重要伝統的建造物群保存地区として選定し、市町村の保存事業への財政的援助や必要な指導・助言を行っています。

海南市黒江のまちづくり

黒江・温故知新の会
にんにこ会

(1) 黒江・温故知新の会

黒江の町の歴史的資源を掘り起こし、価値を再評価・再発見しようとして平成22年5月に誕生しました。鈴木裕範和歌山大学経済学部准教授を代表として33名の会員が所属し、定期的に例会を開いて各方面の専門家や地元歴史に詳しい方を招き勉強会を開催しています。

・地域の資源調査

鈴木研究室の学生と地元の方が参加して黒江の宝探しをするフィールド調査を行い「黒江まち歩きマップ」を作成しました。紀州連子・白漆喰の蔵・うだつのある家・漆器作りの設備等、学生の中には漆器で賑わっていた時代の歴史遺産が新鮮な感動となり、地域全体が「黒江ミュージアム」と映ったようです。

・船尾市場の再生

学生たちの協力を得て、縁日をテーマに「夕市」を企画実行。市場に久々に活気が戻ってきました。

・地域資源の活用

「浄国寺」の本堂で「フルート演奏の夕べ」を企画したところ、百名以上の住民の参加がありました。

・現在取組中

漆器の町として黒江を蘇らせるために、地元の伝統産業に携わって来られた漆器職人から調査を行い、物語として発行する予定です。地元の方が漆器について良く知り、誇りと自信につながることを期待しています。

(2) にんにこ会



「黒江のまち歴史ガイド」(左)と「黒江の散策マップ」(右)

平成22年7月に「海南地域創造推進協議会」が開催した「まちづくり・地域おこしリーダー養成研修」に参加したメンバーが、活動を実践の場に移して研修後も継続している会です。藤坂俊氏を代表に、20名の会員が四つの部会に所属しています。

その中で漆器部会は、漆器を活用した新しい食文化の提案を行っています。漆器の手入れや食材との合わせ方を研究して、インスタラクターを養成。また漆器をメインにした食事を開催、漆器により食材がいかにか引き立てられるかをPRする企画を立案しました。平成22年12月「第一回紀州海南漆器deフレンチ」を開催、地元の黒牛茶屋(名手酒造店)を会場に、地元食材のアシアカエビ、紀美野町産のイノシシを使い、漆器にフランス料理を盛り付ける斬新な企画が大変な人気で、すぐに予約完売、市内外から52人の参加でした。第二回は2月の予定です。

ひな部会

は、黒江・海南駅・商店街の三方所に「お雛様」を展示する第一回のイベントを企画しています。期間は2月1日～3月3日です。

古道歩きでまちおこし



「古道歩きの里 ちかつゆ」

中辺路(国道311号沿い)の田辺市近露に「古道歩きの里ちかつゆ」が、平成22年3月にオープンしました。

紀州の名産品を販売する店舗の一角に「古道歩き館」が併設されています。観光案内と気軽に楽しめる「熊野古道歩き体験プラン」を提供しています。最初にビデオを見て、ガイドからの説明を受けた後、出発地点までバスで送ってもらい、各自のペースで熊野古道歩きを楽しみながら駐車場まで戻ってくるものです。その後は「ひすいの湯」で疲れを癒したり「なかへち美術館」へ立ち寄ったりと近露を存分に楽しむ企画です。



牛馬童子から駐車場まで約1.5km(徒歩約60分)

第2回 景観まちづくり講座

平成22年12月4日(土)黒江ぬりもの館において、第2回景観まちづくり講座が開催され、十数名の方が参加されました。

和歌山大学の鈴木裕範准教授は「地域資源を活用した町おこし」のテーマで、地域の景観(蔵や町屋等)を資源として見直し、お店として活用、地域の伝統技術、産物をブランド化することで成功した「蔵の町」福島県喜多方市と会津若松市の例を挙げ、黒江の場合にも地域資源の再生見・再評価が大切とまちづくりのポイントを説明されました。続いて地元でまちづくりの活



黒江ぬりもの館での講義風景

動をしている2団体「黒江・温故知新の会」と「にんにこ会」の代表の方から、色々な活動の紹介がされました。詳細は上段をご覧ください。

参加者からは、「大変参考になった。黒江の取り組みも一過性のイベントではなく、根付いたものにして欲しい」と意見が寄せられていました。次回は田辺市で2月に開催します。詳細は左記をご覧ください。

今月の一枚

紀州富士



龍門山 寺山 百合山(最初ヶ峰)

2/19

第3回 景観まちづくり講座

1. 「まちづくり～私たち共通の未来へ～」 13:30～14:50
講師：高野山大学客員教授 高橋寛治氏
 2. 「田辺市中心市街地でのまちづくり活動」 15:00～16:00
南紀みらい(株)・商工会議所・商店街の皆様
- 開催場所：田辺地域職業訓練センター(田辺市中屋敷24番地の2)
参加費：無料 事前お申込みが必要です。
詳細については、下記まで

【お申し込み・お問い合わせ】

NPO 法人 市民の力わかやま

〒640-8215 和歌山市橋丁21番地N2ビル3F
TEL/FAX 073-428-2688
URL <http://shimin.or.jp/>
e-mail info@shimin.or.jp
受付時間 月～金 9:30～16:30 ※土日祝休み